

大吹勝男先生への献辞

大吹勝男先生は、2015年1月に古希を迎えられ、15年3月末をもって駒澤大学を定年退職されます。

大吹先生は、國學院大学経済学部から同大学大学院社会科学研究科に進学され、同博士課程を満期退学後、1975年4月に駒澤大学経済学部にて専任講師として着任されました。1978年4月には助教授、1984年4月には教授となり、40年の長きにわたり駒澤大学と経済学部の発展に寄与されてきました。その間、1997年4月から同年9月まで商学研究科委員長、1999年4月から2001年3月までは商学科主任を勤められ、学部および大学院運営にも貢献されてきました。採用時の科目は、最初は商業政策でしたが、しばらくして商学総論のご担当となり、その後、経済学部のカリキュラム改革の中で、商学総論が流通論基礎と流通経済論に分かれて以降は、一貫して流通経済論をご担当されてきています。経済学部商学科の基礎ともいえるべき、商学に関する科目を中心に担ってきていただいたことに感謝申し上げます。

また社会的にも、日本流通学会の理事、『年報』編集委員会委員長を歴任され、2006年からは同学会の副会長を勤めるなど、ご活躍をされてきています。

大吹先生は、マルクス経済学の中でも商業資本・流通費用に焦点を据えた理論研究を専門とされ、1985年に『流通費用とサービスの理論』の単著を上梓された後、1994年には『新版流通費用とサービスの理論』、2004年『流通諸費用の基礎理論』、2005年『商業資本の基礎理論』、2010年『流通諸費用の理論的研究』、2012年『商業資本の理論的研究』というように精力的にご著書を発表されてきています。そして、その中の1994年のご著書によって國學院大學で1995年2月に経済学博士の学位を取得されています。商業資本・流通費用の問題はマルクス経済学の中でも論議・論争の盛んなテーマですが、大吹先生はそうした問題に果敢に挑み、多くの研究成果を上げてこられたことに敬意を表する次第です。

大吹先生は退職されても、変わることなく理論研究に勤しまれることでしょう。そのためにもご健康に留意されて、今後ますます研究を発展させ、多くの研究成果を世に問い、私たち後進を導いていただきますよう祈念いたします。

経済学部長 小 栗 崇 資